

日本医史学会編『医学史事典』刊行記念 令和5年1月例会

総括：『医学史事典』

坂井 建雄

2022(平成4)年7月25日に日本医史学会設立95周年を記念して、日本医史学会編『医学史事典』が刊行された。A5判で836頁、紙面構成は見開き1項目の中項目で、活字主体で興味深く読んでもらうことを編集コンセプトにしている。これまでの医史学書には、いくつかの型が区別できる。

①通史：起源から現代まで、時代を追う。

- ・シンガー・アンガーウッド『医学の歴史』(原著1962, 和訳1985)
- ・マイヤー・シュタイネック, ズートホフ『図説医学史』(原著1965, 和訳1982)
- ・坂井建雄『図説 医学の歴史』(医学書院, 2019)

②テーマ別オムニバス：中～大項目、時代を問わない

- ・Bynum WF, Porter R “Companion encyclopedia of the history of medicine” (1993)
- ・Bynum W, Bynum H『Medicine—医学を変えた70の発見』(原著2011, 和訳2012)

③テーマ別辞書：語音順

- ・カイプル『疾患別医学史』(原著2003, 和訳2005)
- ・Gerabek WE et al. “Enzyklopädie Medizingeschichte” (2007)

これに対して『医学史事典』は、これまでの医学史書に類を見ないユニークな紙面構成である。

『医学史事典』の内容は5部に分かれ、医学の古今と東西、医学と社会をバランスよく見渡している。

- ・第Ⅰ部 世界の医学(1)：古代から近世まで(72項目)
- ・第Ⅱ部 世界の医学(2)：近現代(82項目)

- ・第Ⅲ部 日本の医学(1)：古代から中世まで(73項目)
- ・第Ⅳ部 日本の医学(2)：近現代(81項目)
- ・第Ⅴ部 社会の中の医学(73項目)

本書の制作にあたっては、学会員を中心に専門的な学識を持つ著者に執筆を依頼し、日本医史学会が責任をもって編集にあたった。日本医史学会は医史学の研究と知識の普及を目的に、1927〔昭和2〕年に設立された学会であり、日本医学会を構成する141学会(2023年現在)の第1分科会と位置づけられている。95年に及ぶ歩みの中で『医学史事典』(2019)を含めて4つの書籍が刊行されている。

- ・1892 富士川游らが私立奨進医会を設立
- ・1927 日本医史学会と改称
- ・1928 初代理事長に呉秀三
- ・1932 第2代理事長に入澤達吉
- ・1934 日本医学会に加入、第1分科会となる
- ・1938 第3代理事長に富士川游
- ・1941 第4代理事長に藤浪剛一
- ・1942 第5代理事長に山崎佐
- ・1949 日本医史学会関西支部が支部組織に
- ・1953 第6代理事長に内山孝一
- ・1958 記念事業として『医学古典集』を発刊
- ・1959 『資料でみる近代日本医学のあけぼの』
- ・1960 第7代理事長に小川鼎三
- ・1977-79 『図録日本医事文化史料集成』
- ・1984 第8代理事長に大鳥蘭三郎
- ・1991 第9代理事長に蒲原宏
- ・2006 第10代理事長に酒井シヅ
- ・2010 一般社団法人日本医史学会設立

- ・2013 第11代理事長に小曾戸洋
- ・2017 第12代理事長に坂井建雄
- ・2022 『医学史事典』

本書の企画は2019年4月に丸善出版から坂井理事長に提案され、5月の理事会において承認され、その後5名の編集幹事による打合せ(7月)、10名の編集委員を加えた編集委員会(11月)によって項目案を決定し、著者への執筆内諾依頼に続いて丸善出版からの正式依頼が行われた。それ以来、原稿の回収・編集に時間を要したが、2022年7月に刊行するに至った。編集体制は以下の通りである。

- ・編集委員長：坂井建雄
- ・副編集委員長：小曾戸洋
- ・第I部 編集幹事：澤井直，編集委員：柳澤波香，矢口直英
- ・第II部 編集幹事：坂井建雄，編集委員：山内一信，佐藤裕
- ・第III部 編集幹事：真柳誠，編集委員：小曾戸洋，青木歳幸
- ・第IV部 編集幹事：渡部幹夫，編集委員：中村安秀，柳川錬平

- ・第V部 編集幹事：永島剛，編集委員：廣川和花，高林陽展

本書の趣旨は、以下に引用する「刊行にあたって」の冒頭の一節によく反映されている。

「医学は人々の健康と生命を守る営みであり、文明の発祥とともに始まり、あらゆる地域・社会に存在しています。医学の歴史は、医療を提供する医師・医療者の歴史であるだけでなく、医療を享受する民間・社会の歴史でもあります。その原初の形は経験知をもとにしたり、宗教と結びついたりしていましたが、哲学と結びついて一定の理論体系をもつようになり、やがて科学・技術と結びつきを深めて、高度な現代医学へと発展してきました。医学・医療は、あらゆる時代・地域において、それぞれの社会や文化と深く関わり、薬学や生物学など周辺分野と共鳴しあい、さまざまな病気を経験・認識・克服し続けてきました。その意味で医学史は、医学・医療の専門職にとっただけでなく、社会の多くの人々にも意味深いものであると思います。」